



# 重誓寺報

第二号 平成16年9月

お盆が過ぎ、お彼岸も近づいて来ましたが、まだまだ暑い日が続きます。彼岸とは、煩惱に満ちたこの世（此岸）に対し、仏の悟りの世界、つまり極楽浄土のことです。中国の善導ぜんどうだいし大師は、書物の中でこれを二河白道にがびやくどうという物語で表されています。一人の旅人が西に向かつて旅を続けていました。振り返ると群賊・悪獣が襲ってくるのが見えたのです。あわてて逃げようとした時に、目の前にこつ然と火の河と水の河があらわれまし。その間に幅十五、六セ

ンチで歩くのがやっとという白い道が見えるのです。長さ百歩ぐらいで向こう岸に続いているのですが、常に水波と火炎に覆われています。旅人は「帰ったら群賊・悪獣に襲われて死ぬだろう。止まってもむなしく死を待つだけだ。ここに道がある。どうせ死ぬのなら前向きに死を選ぼう」と思ったのです。その時に東の岸（此岸）からお釈迦さまが「この道をいけ」と勧める声が、そして西の岸（彼岸）から阿弥陀さまが「この道を来たれ」と喚ぶ声を聞いたのです。



限りある命、煩惱から抜け出せない生活（火の河〓いかり、水の河〓むさぼり）の中で、仏様の教えに喚びさまされ、南無阿弥陀仏の教え（白道）を信じ、その念仏の声の中に、浄土への旅人として生き抜いていくすがたを、鮮やかに例えられたものであります。

お彼岸は阿弥陀さまや、先立たれた方への感謝と共に、これから私が歩んで行く道を改めて見つめ直す時であります。

秋彼岸永代経が勤まりますこのころ、重誓寺境内には彼岸花がたくさん咲きます。

どうぞ皆様おそろいでお参りいただき、ご聴門下さい。



## 法座のご案内

毎月 昼二時、夜七時より

・九月二十日、二十一日

秋彼岸永代経法要

勤行 二十日昼 無量寿経 夜 観無量寿経

二十一日昼 阿弥陀経 夜 正信偈

講師 巖水 法乗 師

・十月二十日

常例法座

講師 山月 雅彦 師

・十一月二十日、二十一日

報恩講

勤行 昼 正信偈 夜 十二礼、御伝鈔

講師 野口 宗英 師

・十二月二十日

常例法座

講師 中西 昌弘 師

常例法座の勤行は、

昼 阿弥陀経 夜 正信偈

一月以降は追って御案内いたします。

## 親鸞聖人七五〇回大遠忌についての消息

平成二十四年一月十六日は、宗祖親鸞聖人の七五〇回忌にあたります。本願寺では、ご修復を終えた御影堂において、親鸞聖人七五〇回大遠忌法要を平成二十三年四月よりお勤めすることになりました。このご勝縁に、聖人のご苦労をしのび、お徳を讃えるときにも、浄土真宗のみ教えを深く受けとめ、混迷の時代を導く灯火として、広く伝わるよう努めたいと思います。

親鸞聖人は承安三年に御誕生になり、九歳で出家得度され、比叡山で学問と修行に励まれました。しかし、迷いを離れる道を見いだすことができず、二十九歳の時、聖徳太子の示現を得て、源空聖人に遇われ、本願を信じ、念仏する身となられました。三十五歳の時、承元の法難により、越後にご流罪となられますが、後にはご家族を伴って関東に移り、人びとと生活をともにし、自信教人信の道を歩まれました。晩年は京都で、ご本典の完成に努められるとともに、三帖和讃など多くの著述にお力を注がれ、九十歳を一期として往生の素懷を遂げられました。

親鸞聖人によつて開かれた浄土真宗は、あらゆる人びとが、阿弥陀如来の本願力によつて、往生成仏し、この世に還つて迷えるものを救うためにはたらくという教えです。南無阿弥陀仏の名号を聞信するところに往生が定まり、報

恩感謝の思いから、如来のお徳を讃える称名念仏の日々を過ごさせていただくのです。

仏教の説く縁起の道理が示すように、地球上のあらゆる生物非生物は密接に繋がりを持っています。ところが今日では、人間中心の考えがいよいよ強まり、一部の人びとの利益追求が極端なまでに拡大され、世界的な格差を生じ、人類のみならず、さまざまな生物の存続が危うくなっています。さらに、急激な社会の変化で、一人ひとりのいのちの根本が揺らいでいるように思われます。私たちは世の流れに惑わされ、自ら迷いの人生を送っていることを忘れがちではないでしょうか。お念仏の人生とは、阿弥陀如来の智慧と慈悲とに照らされ包まれ、いのちあるものが敬い合い支え合つて、往生浄土の道を歩むことでもあります。如来の智慧によつて、争いの原因が人間の自己中心性にあることに気付かされ、心豊かに生きることのできる世の中、平和な世界を築くために貢献したいと思えます。

私たちの先人は、厳しい時代にも、宗祖を敬慕し、聴聞に励まれ、愛山護法の思いとともに、助け合つてこられました。この良き伝統を受け継がなければなりません。しかしながら、今日、宗門を概観しますと、布教や儀礼と生活との間に隔たりが大きくなり、寺院の活動には門信徒が参加しにくく、また急激な人口の移動や世代の交替にも対応が困難になっています。

宗門では、このたびのご法要を機縁として、長期にわたる諸計画が立てられ、広く浄土真宗が伝わるよう取り組みることになっていきます。七〇〇回大遠忌に際して始められた門信徒会運動、重要な課題である同朋運動の精神を受け継ぎ、現代社会に応える宗門を築きたいと思えます。そのためには、人びとの悩みや思いを受けとめ共有する広い心を養い、互いに支え合う組織を育て、み教えを伝えなければなりません。あわせて、時代に即応した組織機構の改革も必要であります。

それとともに、各寺各地で勤められる大遠忌法要を契機に、その地に適した寺院活動や門信徒の活動を、地域社会との交流を、そして、寺院活動の及ばない地域では、一層創意工夫をこらした活動を進めてくださるよう念願しております。

宗門の総合的な活動の新たな始まりとして、皆様の積極的なご協賛ご協力ご参加を心より期待いたします。

平成十七年

二〇〇五年一月九日

龍谷門主 釋 即 如

親鸞聖人七五〇回大遠忌についての

ご消息披露記念法座

平成二十四年  
一月十六日、  
宗祖親鸞聖人  
の七五〇回忌  
を迎えます。

それに先だち、  
榎並組えなみそ（旭、  
城東、都島）

では、本年七月二十八日、常宣寺（旭区生江）において、本願寺ご門主様のご消息（前述）を披露する法座が行われ、大阪教務所長がご消息を拝読されました。



浄土真宗 本願寺派（西本願寺）じゅうせいじ重誓寺  
大阪市旭区中宮2 - 4 - 19 電話・FAX 06(6951)0090  
<http://park6.wakwak.com/juseiji/>

---

---